

ふしぎなゆめ

宇検村立田検小学校

一年

久保^{くぼ}

歌菜恵^{かなえ}

わたしは、ゆか。しようがくにねんせい。すきなことは、ほんをよむこと。そして、うたをうたうことがだいすき。きょうのひるやすみはなにをしようかな。

としよかんでほんをかりるよていだったけれど、としよかんはほんのてんけんちゅうでつかえなくてがっかり。それで、こんどはおんがくしつでうたでもうたおうかなとおもって、いこうとしたけれど、そこもほかのひとたちがつかってつかえなかった。しかたなく、きょうしつにむかっていたとちゅうでりかしつをとおりかかると、おにいちゃんのもだちのせいりゆうくんがいるのがみえた。せいりゆうくんはなにかのじっけんをしているようだった。

「なにをしているの。」

「やりたいことがあって、せんせいからきよかをもらってじっけんをしているんだ。」

すると、びんにはいつているにじいろのみずをみせてくれた。きらきらひかっている、ふしぎなかんじがした。「もうすぐかんせいしそうで、ともだちにみせたいんだ

けど、いまでがはなせないからともだちをよんできてくれないかな。」

せいりゆうくんは、べつのきんいろにひかるみずをいれながらそういったとたん、もくもくとけむりがふきだして、あたりがまっしろになってなにもみえなくなつた。しばらくすると、けむりがきえた。するとみたことのないみちにわたしだけがぼつんとたっていた。

はじめてみるくだものきや、きでできたたてもの。ちかくには、うすむらさきいろのかわがながれていた。そのかわにかかっているはしに、ようふくをきたおおきなねこがあるいてこちにちかづいてきた。

「こんにちは。どうしたんだい。」

ねこは、やさしくはなしかけた。わたしは、

「がっこうにいたのに、けむりがでて、きがつくところ

にいたんです。ここはどこですか。」

すこしどきどきしながらきいてみた。

「ここは、るくみら。にんげんがくるのはひさしぶりだ。」

ねこは、ひやくきゆうじゆういっさいでこのむらのそんちようだった。どうぶつたちがにんげんみたいにくらしているむらみたいだった。むかしからときどきににんげんがきているらしい。そんちようさんは、おなじぐらいのとしのココアといううさぎをしようかいしてくれた。お

しやれがすきなココアは、みみにしんじゆのピアスをつけていてレースやリボンがついたふくをきていた。

わたしとココアはすぐになかよくなった。ふわふわとうくボールでボールなげをしたりきでできたシーソーであそんだりした。おなかがすいたら、あざやかなあかいろでなかにハートのかたちのたねがはいった、「ひだまりのみ」をいっしょにたべた。とてもあまくて、ちよつとすっぱくて、たべるところであじがかわるみだった。おなかがいっぱいになったころ、あたりがすこしくらくなっていた。

「はやくかえらないと、ライオンたちがきちやう。」
わたしたちは、いそいそでもといたみちにもどることにした。

もとのぼしよにもどるとそんちようさんがまっついてくれた。

「きょうは、わたしのテントでねるといい。」
それから、ココアが

「これは、またいっしょにあそぶやくそくのものだよ。」
といってわたしのてになにかをもたせた。みてみると、ほしのかたちをしたちいさないしだった。

わたしは、そのいしをにぎりながら、テントのベッドでねた。ゆめのなかでちいさないしがまぶしいぐらいにひかると、わたしはいつのまにか、りかしつにひとりで

たっていた。せいりゆうくんもだれもない。てのなかをみると、ちいさなほしのいしがすうつときえていった。まどのそとには、ひだまりのみのようなゆうひがかがやいていた。